

運転代行／フロント

①

マハコク

横浜代行運転サービス(横浜市中区)は1977年開業の老舗(しにせ)。田中義光社長は「神奈川のパイオニアとして自負がある」と強調、長年の経験

強みは「横浜の先駆者」

長年の経験、従業員教育に

業時、運転代行そのものを知る人が極めて少なく、事業内容を理解してもらった日の日々。地道な営業活動で利用者を獲得していった。「安心・信頼を売りに、お客さんに長く利用いただいても私どもを使ってくれる」従業員への教育を徹底する。スタッフ採用後の実地訓練で、

サービス面にも工夫を凝らす。随伴自動車には領収書発行連動の料金メーター器を設置し、ダッシュボード上の表示器で車外に額を示す。明瞭な精算ができると喜ばれている。タクシー会社と同じように事故処理担当がいて、万が一の際のバックアップ体制を整え、信頼を高めている。

ダッシュボード上の料金表示器を指さす田中社長。すべての随伴車に無線機、領収書発行機能のメーター器を装備



横浜代行運転サービス(横浜市)

運転技量だけでなく言葉づかいも見極めてから適性を判断し、たとえ二種免許保持者でも不適合なら顧客の車は運転させない。顧客車の担当者はスーツ、白手袋、「二種免ドライバー腕章」という身なり。外国の高級車も珍しくなく、左ハンドルの場合、熟知したスタッフを派遣する。2人1組で車庫入れするなど、安心感を与えている。

神奈川県の運転代行協会会長を務めるなど公的活動に取り組み「斜陽産業となる瀬戸際に立たされている」と指摘する。

田中社長は「適正な事業者は兼業でもなければ経営が成り立たず、悲鳴を上げている」と憂う。自社の随伴車を使う「車両持ち込み」や無保険、税金滞納などの悪質業者が低価格競争を招いていると指摘する。

「神奈川県」の運転代行協会会長を務めるなど公的活動に取り組み「斜陽産業となる瀬戸際に立たされている」と指摘する。

「神奈川県」の運転代行協会会長を務めるなど公的活動に取り組み「斜陽産業となる瀬戸際に立たされている」と指摘する。